書式　５

報告症例（音声言語）記録用紙

会員番号＿＿＿＿＿＿＿＿　申請者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

報告症例（区分を下記の分野から選択する）

区分

１）構音評価

２）鼻咽腔閉鎖機能の評価

（言語聴覚士の評価、他職種との連携評価、総合的判定などを含む）

３）鼻咽腔閉鎖機能良好例の構音訓練

４）鼻咽腔閉鎖機能不全例の構音訓練

（補綴的発音補助装置や二次手術などを含む）

５）他職種および他施設言語聴覚士との連携での言語療法

６）言語管理（言語発達、聴力評価、音声などを含む）

７）家族支援　（発達面、聴力、心理社会的問題などを有する例など）

症例１　区分（　　）

症例２　区分（　　）

症例３　区分（　　）

症例４　区分（　　）

症例５　区分（　　）

診断名は医学的診断名と裂型を記入してください。

言語障害名は 1)鼻咽腔閉鎖機能、2)構音障害、3）1）2）以外の言語障害から選択する。

必要があれば、図表を添付して下さい。

症例１　区分番号（　　）

年齢

診断名

言語障害名

言語療法の内容

書式　5

報告症例（音声言語）記録用紙：記入例

会員番号　9999　　申請者氏名　　言語よし子

症例１　区分番号（　１　）

年齢　　6 歳

診断名　　片側性唇顎口蓋裂（左）

言語障害名　構音障害

言語療法の内容

手術歴：当院形成外科にて 1 歳 3 か月時に口蓋形成術を施行され、その後 6 か月に 1 度当院の言語聴覚士による言語管理を受けた。

合併症：滲出性中耳炎の罹患歴あり。近耳鼻咽喉科医にて投薬による治療を受けたが、聴力低下はなかった。

【言語評価】5歳時の言語評価は以下の通りである。鼻咽腔閉鎖機能：口蓋裂言語検査にて開鼻声　なし、呼気鼻漏出による子音の歪み　なし、ソフトブローイング時の呼気鼻漏出　なしであり、鼻咽腔閉鎖機能は良好と判定された。新版構音検査を実施したところ、［ｔ，ｄ(-a,o)］は単音節で口蓋化構音を認めた。[te]は単音節と単語で適正音が可能、文章で口蓋化構音を認めた。また、[s,ts,dz］は全ての後続母音において、単音節で口蓋化構音を認めた。知的発達および言語発達に関しては、PVT-R絵画語い発達検査にて、語い年齢4歳8ヵ月（評価点SS9）であり、保護者への聞き取りを総合し、大きな問題はないと判断した。

【まとめ】鼻咽腔閉鎖機能は良好だが、構音は口蓋化構音を認めた。精神発達及び言語発達に関しては、大きな問題がないと考えられた。

【方針】系統的な構音訓練を行うことのできる発達段階に達し、課題態勢も整っているため訓練を開始する。

【言語治療】構音訓練開始年齢の 5 歳（幼稚園年中）に達し、課題態勢も整っていたので、当院までは頻回な通院が困難なため症例の地元の A センターの言語聴覚士に構音訓練を依頼した。当院言語治療室でも 6 か月に 1 度の定期検診を継続している。

（必要があれば、図表を添付：構音評価の場合は構音検査（単語、音節）のシート）